

新しい年を迎えて

所長 尾上重幸

新年明けましてお目出とうございます。

昨年をふり返ってみますと、わが国は例年のない高温少雨の異常気象に見舞われ、農業生産に大きな被害をうけました。本年は何としても2年続きの異常気象にあわないようにしたいものです。

早いもので、私どものセンターは、暖地園芸センターとして新たに発足してから2年目を迎えることになりました。設立以来、本県の花き、果樹(ウメ)、育種等の研究の中心として研究陣容、施設の充実強化、産地の対応等に努めてまいりました。その結果、まだまだ十分とは申しませんが、試験研究もようやく軌道にのりつつあり、皆様方のご要望にも何とか応えられるまでに成長してまいりました。色々のご支援をいただいていた皆様方にこの紙面をお借りして、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

今日の変化のはげしい農業情勢のなかで、本県農業の一層の発展、振興を期するためには、新しい時代に呼応した、その要請に対応し得る試験研究事業の円滑化、効率化が一層重要視され、今後一層、専門研究の充実と産地対応の強化が重要な課題となつてまいるとおもわれます。

最近、我々の毎日の生活のなかで、「価格破壊」という言葉がよく使われ、生活用品を中心に小売価格が安くなってきております。(人によっては、これを「価格の正常化」と呼んでいるようですが)流通業界では、生産コスト低下への努力が一段と重要視され、小売価格の低下が次第に浸透しつつあります。この価格低下戦略が次第に農産物全般へ影響を及ぼしてくると思われまふ。すでに一部の農産物にはその影響が出始めているものもありますが、私達農業関係に携わる者にとってこの問題をさけて通れない時期に来ているのではと思つております。

農産物の輸入自由化により、これから、外国から安い農産物が大量に輸入される事態が

予想されます。当然、国内産農産物価格も引き下げられるでしょう。消費者の低価格志向が一段と高まり、価格は確実に低下すると思われまふ。

花を例にあげますと、わが国では、今まで業務用需要に支えられた高価格消費構造でありました。私達も「高品質高付加価値高価格」を合言葉に技術開発をしてまいりました。これからは、花と緑を求める声が大きくなっているなか、花の一層の普及定着をはかり、潤いと安らぎのある豊かな生活の実現をはかるためにも、家庭用の安定した需要に支えられるヨーロッパ型志向に展開を広げることが重要とおもわれます。高品質でしかも手頃な価格の花を沢山提供し、日常的にコンスタントに消費される状況を作り出していくことが今後の花の需要拡大を高めることになり、そのことが結果として生産を含めた花き産業全体の発展につながるようになると思ひます。

現実に高級品が高値で流通している現状のなかで、今の流通業界で旋風している「価格破壊」の影響を受けた安価な花の供給への取り組みについては、現状の流通体系の中ではすぐにはいろいろと困難な面もありますが、時代の流れのなかで、次第に共通認識が形成され、新しい生産、流通システムが構築されていくことが予想されます。ですから、私どもは、これからも、地域農業の振興という観点から、本県の恵まれた気象、立地条件を最大限に生かしながら、高品質低コスト生産技術の確立、多収優良品種の育成をもとに、新しい需要を開発していくような技術の確立を目指し、本県農業の活性化に少しでもお役に立ちたいと思つております。

これからも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げ、年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げますと共に本年がすばらしく、明るい年になりますことをご祈念申し上げます。

まもろう人権 なくそう差別